

# 高等教育開発センターの発足1年を振り返って

高等教育開発センター長 かがわ たかお  
香川 敬生

## はじめに

工学部の一教員が本学の教学マネジメントと教育の内部質保証を担う高等教育開発センター長を拝命して1年が過ぎようとしている。本センターの位置づけや教学マネジメント・内部質保証に関しておこなうべき内容については学内外の先達の先生方からの寄稿があるため、ここでは発足早々の本センターを担当するに至った経緯について自己紹介を含めて述べ、続いてセンター所属の皆様とともに模索したこの1年の活動について紹介させて頂こうと思う。

## 1. センター長受諾まで

私自身は理学部の地球物理学講座の修士課程を経て、バブルの末期に地盤調査・解析系のコンサルタントに就職したのがキャリアの始まりだった。必修科目は語学とスポーツくらいで卒業研究も任意、あとは自分の興味で科目を選択して単位を揃えれば卒業できる自由な学風で育ったため、大学とはそういうものと思いつつ、そういう場に戻るとは思わずに過ごしていた。職場では地震動予測の業務に携わり、その高度化のための研究活動を続けていた。そのため論文提出で博士（理学）を取得し、平成20年に本学工学部に採用されることとなった。その際、理学部と工学部の違い以上に、大学の学びが「自ら切り拓く」から与えられるものに大きく変わっていることを感じた。全学共通科目の地球科学を担当することもあり、着任早々に始まった「教養ゼミナール」（当時は「鳥大読書ゼミナール」）に賛同し、学生が自ら学びを切り拓く一助ができないかと現在に至るまで担当を続けている。

そのような中でこのお話を頂いたのだが、まず思い浮かんだのは「何で私？」という疑問符であった。また、かなりのエフォートをセンター運営に割かねばならないとの危惧も生じた。しかし、教学マネジメントが掲げる「学生の主体的な学習を促す観点」から、「なぜ学ぶのか」を意識する学生をもっと増やしたいという思いとも向き合い、センター長を引き受けることにした。振り返ってみると、所属学科がJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定プログラムであり、教育の内部質保証の概要は理解していること、研究テーマのひとつとしている「防災」は雑学の塊でもあり、浅いもののそれなりに広い分野に目を向けるようにしていること、ボーイスカウト運動に携わっていることで、少し年代は異なるが、子供たちの自発的な成長をサポートする訓練を受けていることなど、「案外適任なのかも知れない」と思うに至った次第である。

教育支援・国際交流推進機構に高等教育開発センター、教養教育センター、データサイエンス教育センターを設置しました。 2021年04月02日

鳥取大学は、令和3年4月、教育支援・国際交流推進機構教育センターを改組し、新たに高等教育開発センター、教養教育センター、データサイエンス教育センターを設置しました。  
この改組は、教学マネジメント等を推進する体制を明確化し、学生が自学自修できるような教育改革を促進すること、データサイエンス教育の全学的な推進並びに教育のDX化を促進し、デジタル社会に対応できる人材育成方策を作成することなどを目的として実施したものです。

4月1日には、機構改組に伴い、看板を新たに設置しました。中島 廣光 学長、田村 文男 教育支援・国際交流推進機構長、データサイエンス教育センター長、香川 敬生 高等教育開発センター長が看板の除幕を行いました。その後、田村機構長から教育センターから新センターに配置になった教員へ、「この改組によって、本学が目指す『学生が鳥取大学で学んでよかった』と思える大学になれるよう、新センターでの活躍を期待するとともに、センター間で連携協力してほしい」との訓示がありました。



(除幕の様子。左から香川センター長、田村機構長、中島学長)

## 教育支援・国際交流推進機構の改組による高等教育開発センターの発足

**高等教育開発センター**

**お知らせ**

- ▶ 12月09日 [令和3年度後期授業公開のお知らせ \(終了\)](#)
- ▶ 11月04日 [令和3年度FD・SD講演会の開催 \(終了\)](#)
- ▶ 10月19日 [【採用情報】 高等教育開発センター 准教授、講師又は助教 1名 \(終了\)](#)

**設置の目的**

高等教育開発センターは、全学的な教育方針を企画・立案するとともに学部・研究科等と連携し、教育プログラムの自主的な質保証及び質向上に関する取り組みを支援することを目的に、令和3年4月に教育支援・国際交流推進機構の教育研究施設として設置されました。

**業務**

- 教学マネジメントの実施・運営
- 教育の内部質保証(自己点検・評価)の実施・運営
- エンローメント・マネジメントの実施・運営
- 学修成果の可視化
- 全学的なFD・SDの企画・実施及び学部・研究科等との調整支援
- 大学院における共通教育の企画・開発

**高等教育開発センター教員**

- 高等教育開発センター長 香川 敬生
- 専任教員
 

教授	永松 利文
教授	武田 元有
教授	小林 昌博
准教授	瀬戸 邦弘
准教授	田鍋 良臣
- 兼務教員
 

教授	橋本 隆司
教授	大野 賢一
教授	岩井 健雄

高等教育開発センターの HP

## 2. 高等教育開発センターの1年

前述のように、私が教学マネジメントや教育の内部質保証について本格的に携わるのは高等教育開発センター発足の令和3年4月からであったため、藤村学長顧問(教学マネジメント担当)、大野学長特別補佐(IR担当)のご指導を仰ぎつつ、専任および兼務教員、学生部教育支援課の事務職員の皆様に助けられながら活動を始めることになった。あわせて自分自身も関連書籍を読んだりオンラインのセミナーに参加したりと勉強を進めると、自分の担当科目でどこまで実践できているかはなはだ疑問な点も散見され、センターでの活動が大学における教育を改めて考える機会にもなっている。

活動を始めるにあたって、まず所属メンバーの分担テーマを決め、4月の発足から月に2回の定例会で課題を共有して解決方法を議論し、必要に応じてテーマ毎に少人数のワーキングを実施することで、ひとつずつ業務をこなしている。これまでに教学マネジメントおよび教育の内部質保証として実施されてきたものにはできるだけ新しい方向性を持たせ、本学ではまだ十分実施されていないものの今後必要とされる取り組みの導入にも努めている。これらのうち主なものを挙げると以下ようになる。

○教育の内部質保証として、令和2年度に各部局に依頼していた教育の自己点検および教学

マネジメント自己点検の評価をおこない、令和3年度はこれらを統合して効率的に依頼できるよう準備を進めた。

- 学生の学修成果を可視化し、毎年の成果を振り返って自律的な学修を進めるためのツールとして、医学部で先行しているeポートフォリオの活用に協力し、全学展開を模索している。DP能力（学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)毎の達成度)を学生毎に提供できるよう、まずは卒業生を対象とした可視化を進めた。高等教育開発センターでは、これらを「学生に対する支援活動を総合的にマネジメントする」エンrollment・マネジメントのしくみ作りの一環と捉えて活動している。
- シラバス記載内容の充実に向けて、全学的な「シラバス作成の基本方針」と具体的な作成方法を示した「シラバス作成要領」を作成した。また、シラバスのチェックについて各部署の協力を仰ぐ体制を構築した。
- 各部署とは定期的な教育支援委員会で情報共有および意見交換をおこなうとともに、各学部を訪問して学部長を交えた意見交換会を9月に実施した。
- FD・SD活動では、新任教員向けFD研修会を実施したほか、秋季の全学FD・SD研修会ではeポートフォリオやデータサイエンス教育など本学の新しい取り組みを紹介するとともに、年末の全学FD・SD講演会ではシラバスの充実やルーブリックを活用した評価方法に関する学外講師の講演を企画した。また前期・後期それぞれ全学共通科目を中心として授業公開を実施した。
- 令和2年度からオンライン提出となった授業アンケートの回答率を向上させるための模索をおこない、まだ十分ではないものの改善できつつある。

### 3. 今後に向けて

新たなセンターとしてスタートしたものの、センター長自身が工学部からの併任であり、専任教員も教養教育センターを兼務して全学共通教育に携わり、事務職員も教育支援業務の一部として本センターに関わっている。このため、こなすべき業務に対して構成員の-effortを調整しつつ活動を進める初年度となったが、令和4年4月には新しい専任教員を迎える予定であり、センターの使命をさらに進めることができると期待している。今後、本学から特色のある活動を発信し、充実したセンターとして発展するための基礎作りに貢献したいと思う。

教員の皆様および事務職員・技術職員の皆様には、各部署を通じてさまざまな依頼をすることになると思われる。いずれ本学に適した教学マネジメントが構築されて動き始めれば、学生が自発的に学ぶ環境が構築され、それを担う教職員の業務効率化も図られることになることを期待している。伏してご協力をお願いして、結びとしたい。